

**令和4年12月第4回 木島平村議会定例会**  
**《第3日目 令和4年12月8日 午前10時00分 開議》**

**議長（萩原由一）**

おはようございます。

これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

日程第1、一般質問を行います。

一般質問の順番については、議会運営委員会において抽選のとおりです。

8番 勝山 正 議員。

（「はい、議長。8番。」の声あり）

（8番 勝山 正 議員 登壇）

**1. 令和5年度予算編成に当たり**

**8番 勝山 正 議員**

それでは、通告に基づきまして、2点についてお伺いしたいと思います。

最初につきましては、「令和5年度予算編成にあたり」次のことをお聞きしたいと思います。

今現在、観光施設の民営化に向け、民間譲渡について日々取り組まれていることと思います。

村民説明会等で説明がありました、民営化に伴い施設にかかった設備投資等がなくなり、その分の事業をほかの事業を充実できるという説明がありました。

長期的な課題は、少子化対応に併せ、移住定住、婚活支援など力を入れるべきと言われていますが、観光施設にかかっていた設備投資分を、令和5年度において長期的な課題に対し、具体的にどのような事業展開を進めていくか、その考え方をどういう考え方でいられるのか。

また、県内において、若い方の子育て支援が充実することで、移住する方が増えている地域もありますが、その反面、その子育てが一段落し子供が手元から離れる頃には、ほかの地域に移住するケースもあると聞いています。

また、既に実施している免許返納者への支援や、買い物弱者に対する支援も今まで以上に必要と考えるが、どうでしょうか。

2点についてお伺いしたいと思います。

**議長（萩原由一）**

日碁村長。

（村長「日碁正博」登壇）

**村長（日碁正博）**

はい、それでは、勝山議員の令和5年度予算編成当たりということではありますが、令和5年度の予算編成等については、他のご質問でも答弁したとおりであります。

ただし、財政計画や予算編成に当たっては、どこを減らしたからどこへ回したというようなことではなく、全体の中で調整していることは、ご理解いただきたいというふうに思います。

具体的なお質問について、担当課長に答弁をさせます。

**議長（萩原由一）**

丸山総務課長。

（総務課長「丸山寛人」登壇）

## 総務課長（丸山寛人）

それでは、ご質問に対して村長の答弁に補足してご説明いたします。

観光施設にかかっていた設備投資分を令和5年度において、長期的な課題に対し、具体的にどのような事業展開を進めていくかのご質問ですが、実施計画において、主に観光施設特別会計で計画されていたスキー場及びパノラマランド木島平の修繕費用が不要となっております。

また一方で、不安定な世界情勢による光熱費の高騰や物価の値上がりがあり、観光施設で不要となった分をそのままほかの事業に充てていくことができないのが現状でございます。

なお、令和5年度予算編成においては、昨日のご質問でもお答えしたとおり、「少子化対策の推進」「2050 ゼロカーボン社会に向けた村づくりの推進」「デジタル社会に対応した村づくりの推進」の3大テーマを含め、検討してまいりたいと考えております。

議員ご指摘の免許返納者への支援の継続や、買い物弱者への支援などについては、既に進められている事業でもあり、次年度予算に向けて検証を含め、検討していきたいと考えております。

## 議長（萩原由一）

勝山 正 議員。

### 再質問

#### 8番 勝山 正 議員

それでは、再質問ということでお願いしたいと思います。

昨日も山崎議員の質問に対して、「少子化対策の推進」の答弁がございましたので、そのことについては質問は省かせていただきたいと思いますが、今話がありましたように、3大テーマとして、「少子化対策の推進」「ゼロカーボン社会に向けたもの」「デジタル社会に対応した村づくり」の推進を3大テーマとして、予算形成をしていくとされておりますが、少子化対策の一環としましてですね、若者の移住定住、婚活支援も重要課題だと思います。人口が増えなければ、村づくりの推進もなかなかうまくいかないものだというふうにも思います。

地方においては、高齢化に併せ人口減少が進行しています。それに伴い、社会的、経済的な課題が生じているのが現状であります。要因としまして、地方から東京圏への移住、流出ということですけれど、その部分が多いことということでもあります。コロナ禍で見られた地方への移住の動きが更に加速すると思いますし、したがって、若い人たちの働きやすい環境の整備、魅力の向上を推進する必要があると思いますが、具体的策はあるのかどうか。その点について、お伺いをしたいと思います。

また、買い物弱者への支援は既に行っていると言われておりますけれど、具体的にどのような方法で、誰に対し実施されているのか、村民への周知はどのようにされているのか。検証は次年度とされておりますけれど、日々検証が必要と思いますが、今のこの点について、お伺いしたいと思います。また、それについての課題は何かあるのか、ご答弁をお願いします。

また、新聞でも、こないだ北信ローカルですか、載っていましたが、交通の不便な地域において、買い物弱者のみならず、誰もが利用できるようなになればということで実施されている自治体もあります。これをやることによって、小さな拠点づくりにもなるんじゃないかなということで、そういう紙面がありました。買い物弱者支援につきましては、業者に依頼して対応しているというふうにも記載されておりました。この点について、お答えをお願いしたいと思います。

## 議長（萩原由一）

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

## 産業課長（湯本寿男）

それでは、私の方からは、移住の関係で、若い人が働きやすい環境づくりをどう考えるかというご質問についてお答えをいたします。

現在進めています観光施設の民営化も、その一つと考えております。

これについては、今まで村有施設として運用してまいりましたが、今後、民営化によりまして、企業誘致という観点もございまして。そういったことから、魅力的な企業として、今後、村の雇用の場として考えております。

それともう1点、働きやすい環境としまして、創業支援という事業を村でも行っております。現在、いくつかの企業にも支援をしておりますので、そういった新たに事業開始をしやすい環境づくりというのも行っております。

もう1点課題としまして、若い人が木島平ですとか、近隣の市町村に勤めるということもあるんですけども、さらに、この辺でいいますと長野市辺りに通っていきやすい環境づくりというの、一つ課題として思っております。

これについては、どういった事業がいいのかということも今後の課題として捉えておりますので、それについては具体的にはなっておりませんが、そういった環境づくりということも必要性は感じておりますので、よろしく願いいたします。

## 議長（萩原由一）

山寄民生課長。

（民生課長「山寄真澄」登壇）

## 民生課長（山寄真澄）

勝山議員の再質問にお答えします。

買い物弱者への支援の現状等ということだと思いますが、買い物支援につきましては、現在、民生児童委員と社協、昨日の答弁でもお答えしました内容であります。社協に委託しております生活支援事業の関係で連携して、この買い物支援に関わる取組を行っております。

民生児童委員協議会では、令和2年2月に、その定例会の中で高齢者の交通手段、買い物支援等の住民福祉サービスについての課題について様々な意見が出されました。この課題について、委員相互でどのような課題があるのかということで、意見をまとめるアンケート調査を行っております。

令和2年8月には、民生児童委員協議会の中に小委員会を設けまして、買い物支援、移動支援、そういうような様々な地域の課題について検討する場ということで、小委員会を設けたということになっております。この検討した内容については、行政、社協、そして区長とかに提言すると、そういう内容の小委員会でありました。

その中で、村社協の生活支援コーディネーターから、村社協で実施している村の介護予防事業になりますが、社協で運営しております「いきいき広場」の中でも、買い物支援に関わる取組をやっていると、その話も聞いたりしております。いきいき広場の利用者の中では、現状、買い物難民、買い物支援を必要な人はないというような話でありました。

また、先ほどちょっとお話がありました飯山市の関係であります。移動スーパーですか、その中で話もありました。その移動スーパーにつきましては、需要のないところではちょっと回れないというような話があったというふうに聞いております。

民生児童委員会独自としまして、令和2年9月に地域課題の把握ということで、委員による担当地区住民の聞き取り調査を行っております。担当地区住民につきましては、独居、老老、障害者世帯、貧困世帯、その調査を実施したところ、内容的には、買い物、通院、理美容、頭です、雪かきなどの課題について、聞き取り調査を実施したということになります。そのアンケート結果の集計を確認して今後、ということになりました。

アンケート結果につきましては、毎日の食材に困っている人は確認できなかったということでもあります。よくお聞きしますと、近隣市町村にお住まいの息子さんとか娘さん、子供さんに買ってもらうということで、実際の食材購入に困っている方は居られなかったということでもあります。

ただ、日々の食材より、デマンド交通なので、行けないところへ買い物に行きたいと、外出支援のような要望が多かったという結果でありました。

日々の買い物に困る件につきましては、社協が、昨日の答弁の中でもお話しました、実施している有償ボランティアで、有償ボランティア「る・れるポイント事業」の動向を見て考えていこうと、そんなようなことになりました。

民生児童委員としましては、外出支援の一環として、買い物ツアーというものを検討するという最終的な結論ということでもあります。社協の方では、今、「安心買い物ツアー」を令和3年から実施しております。令和3年は年2回計画しましたが、8月の部分につきましてはコロナの関係で中止になりましたが、12月に2回行っております。今年も、6、8、10、これから12月あるんですが、各1回開催することになっております。

この安心買い物ツアーにつきましては、1人で買い物に不安な方も、ボランティアの協力により安心して出かけるということで、実施しているものでありまして、近隣のエコープみゆき店とかJAファームとか、そういうようなところへ出掛けるというものであります。

これについては、1回当たり4、5人の参加ということで、これについては参加人数が少ないということで、やり方を今後考えていかなければならないかなということで考えております。

この安心買い物ツアーについては、今月の11月の村社協だよりの広報にも掲載になっておりますが、よろしくお願ひしたいと思ひます。

今のところ買い物支援、先ほど申し上げましたが、買い物支援の必要な方は少ないというふうに考えられますが、今後のことを考えていきますと、すぐには形にはできないというふうに思っておりますが、今後、買い物支援については研究していかなければならないというふうに思っております。

以上であります。

## 議長（萩原由一）

勝山 正 議員。

### 再々質問

#### 8番 勝山 正 議員

それでは、再々質問ということでお願ひします。

今、民生課長の方からも答弁ありました。

確かに「いきいき広場」でも開催してみますと、当地区の場合を例に言いますと、出席する人数が非常に少なくなってきたということが現状だと思います。ってことは、そこに行くにもままならないというような状況ではないかなというふうに思っております。

たまたま区内での話出た中では、複数の地区を一緒にまとめて、それでやったらどうだと、開催したらどうだという話も出ました。それには、そこまで行くにはどういう移動手段をとらなければならないのかという問題も出てきます。

そういうことも含めながら、今話ありました買い物支援については、特段問題はないということでもありますけれど、実際のところ言ひましてね、前も話したかもしれないですけど、一般の業者の方が入って来ている場所もあるんですね。定期的に来ていまして、それは一般雑貨からお菓子類、生鮮食品類まで、年寄りの方の家の玄関先まで来てどうだとやってるところもあります。

できればですね、こういうこともやっているんだっていうのを、もう少し詳しい情報を村民に周知していただければありがたいかなと。

なかなか先ほど話出ましたように、免許も返しちゃってなかなか外に行かれない。デマンド交通もあるからいいだろうという形もあるかもしれませんが、それに行くにしても、なかなか難しいという人も増えておりますので、今後ですね、そういう方たちへの支援策として、もう少し充実した方法で、村民の方にですね、こういうことやってるんですよっていうのは、もっと周知していただければありがたいかなというふうに思います。

確かに、若い人たちが近隣に居てですね、買い物してくれる場面もありますけれど、そうは言ってもなかなか出て行かれない。そばにお店がないという話になれば、そういう支援を必要とする方がまだたくさんいると思っております。ですからもっとですね、こういうことやってますよというようなことを広報を通してですね、しっかりと伝えていただければありがたいなと思っております。

それともう1点、移住定住の関係でいきますと、課長も言いましたように、確かに雇用の場所が必要になってきます。場合によっては、企業誘致も大事だと思いますので、若者がここに定住するような、また移住してくれるような、施策もどんどん出していただいてですね、しっかりとこの村が元気づけるような村にしてほしいかなというふうに思っております。

考えをお聞かせいただければと思います。

### **議長（萩原由一）**

山寄民生課長。

（民生課長「山寄真澄」登壇）

### **民生課長（山寄真澄）**

勝山議員の再々質問についてお答えいたします。

買い物支援の更なる充実した方法を検討してもらいたいというようなことだと思いますが、それにつきましては、先ほど申し上げたように、これから研究していきたいというふうに思っております。

また、こういうことを、やってることをもっと周知を、ということであります。

昨日の答弁にもありました「る・れるポイント事業」の中でも買い物支援できるようになっておりますし、今回の「安心買い物ツアー」それにつきましても、社協で運営しておりますが、社協と相談しながら村広報、ふう太ネット等でやりたいというふうに考えておりますので、よろしく願いいたします。

### **議長（萩原由一）**

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

### **産業課長（湯本寿男）**

それでは、私の方から移住定住の関係で、移住しやすい環境づくりの中で雇用の確保の考え方という再々質問にお答えをいたします。

再質問の中でもお答えをいたしましたように、木島平で企業誘致も含めた雇用の場づくり、また外へ通えるといった環境づくりという2点が課題と思っております。

まず最初の、村に雇用取組の中ではお答えしましたように、民営化に伴う企業誘致、それとまた、創業支援の関係の補助金の対策等を今行っておりますけれども、また今後、どういった対策が必要なのかといったことも、またご意見をいただきながら検討を進めていきたいというふうに考えております。

それとまた、外に向けての雇用の確保ということでもありますけれども、これについては、交通アク

セスといった課題があると思っております。またこれについては、広域的な取組にもなると思っておりますので、この辺も課題として、今後考えていければというふうに思っております。

よろしく願いいたします。

## 議長（萩原由一）

勝山 正 議員。

## 2. ファームス木島平・観光交流センターについて

### 8番 勝山 正 議員

それでは2項目目の質問したいと思います。

「ファーム木島平並びに観光交流センターについて」であります。

道の駅につきましては、農の拠点としてコンサルタントや道の駅支援機構などの助言等をいただき、前に進むと思っておりましたが、なかなか前に進めないというのが現状であります。

先月末には、家族で1日楽しめる道の駅日本一といわれる「道の駅 川場田園プラザ」への視察を行ってきました。当時月曜日でありましたが、平日ではありましたが、たくさんの方で賑わっておりました。今日まで至るまでには大変な苦勞もあったと聞きましたが、苦勞した分成功したときの喜びは倍増するというふうな話も聞いてきました。

それですと、担当部署において大変苦慮されていると思いますが、イベント等の開催や花壇の整備、木製遊具の設置により小さい子供連れの方が多く見られ、活気があるように見えますが、現況はどうなのでしょう。収益性について、どの程度まで上がっているのかお教えいただきたいと思っております。

また、「食彩市場たる川」との統合については、9月議会では運営方針や方向性が決まっていない現状との答弁でありましたが、その後の進展はどうでしょうか。たる川につきましては、今期12月の26日から3月いっぱい、臨時休業ということの予定をしております。

3つ目として、農の拠点施設の今後の進め方について、担当部署に限らず、庁舎内各部署職員から、在り方や運営方法等について意見を集約することは可能でしょうか。

川場では、自分の部署以外は関係ないという風潮を一掃して、経営改善に努め、それぞれの意見を集約できたということをお聞きしておりました。

4点目として、農の拠点施設は、何をコンセプトとして活用方法を考えているか。

国道403号、蛭川橋（ひるかわばし）から中央橋に向け、令和5年度より拡張工事が入ります。それに伴いまして、403号の駐車場は無くなってしまおうという状況になろうかと思っております。そのために、拠点施設をどのように活用していきたいのかをお願いしたいと思います。

また、観光交流センターについては、指定管理により建物の維持管理をしているわけですが、建物の会議室の利用や活用について、「利用しにくい」という声も聞いております。それに伴って、利用するにはどのような方法、手続きですね、があるのか、利用料金等はどうか、そこら辺のところを答弁願いたいと思っております。

## 議長（萩原由一）

日碁村長。

（村長「日碁正博」登壇）

## 村長（日碁正博）

はい。それでは、ファームス木島平と観光交流センターについてのご質問ですが、最初に、私の方から勝山議員の質問の3点目、4点目、ファーム木島平の今後の方針、考え方についてお答えをさせていただきます。

ご質問のとおり、昨年度に運営改善計画を提示し、議論いただきました。現状の建物を改修して改善していく計画等をいたしました。しかしながら、マルシェホール側の屋根の改修をしたとしても、その他の設備の老朽化は進み、いずれまた大きな改修が必要になるなどのご意見をいただき、施設補助金等を返還ができなくなる、できるだけ少なくなる時期に向けて再検討していくという考え方を示したところであります。

今後は、建物全体をどうするのかも含めて、どういった機能が必要なのか、管理をどうするのか、議論を進めていきたいと考えております。具体的には、職員のみならず、検討委員会のような、意見を伺う場も必要と考えております。その際にはまた、議員各位において村民の代表として、また、立場を超えてご協力いただけるようお願い申し上げます。

具体的な手法やスケジュール等については改めてお示ししながら、進めていきたいと考えております。

ほかの部分については、担当課長に答弁をさせます。

## 議長（萩原由一）

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

## 産業課長（湯本寿男）

それでは、私の方からお答えをいたします。

まず1点目のご質問のイベント等による効果、収益性はどうかということでございます。

昨年から地域支援コーディネーターとして職員を雇用しながら、遊具の設置や道の駅を活用した農林高校や中学校、保育園などとの連携によりイベント等を開催をしてきました。

その効果として、子供連れなどのご家族の利用が増えております。直接的に数値的な効果として難しいところはございますけれども、10月時点の数字で集客数においては昨年比123%、店舗売上については昨年比132%となっております。また、コロナ前の令和元年との比較でも、集客数で105%、売上では約132%となっております。

ただ、管理面を考慮しますと、村の直接管理となっておりますので、職員の経費は運営面には表れてきておりませんので、施設の考え方によりますが、収益面で見れば、今後の管理方法の課題ということが言えると思っております。

2点目の「食彩市場たる川」との統合についてのご質問であります。

現状、施設の方針について進んでおりませんので、具体的な進展はございませんが、将来を見据えた協議を早期に行う必要があると考えております。

最後に、観光交流センターの利用についてのご質問です。

まず、利用するにはどのような方法、手続きというご質問でございます。

現在、観光交流センター条例では、施設を利用することができるように定められておりますが、令和3年4月から、観光振興局の事務所をファームスの中に移動したことによりまして、また、併せてこれまでの観光交流センターの利用実績から、会議室等の利用については、農村交流館をご利用いただくよう案内をしております。

なお、観光交流センターについては、令和3年度一般会計及び特別会計決算審査意見書において、ファームス木島平での観光案内面が定着したことから、ファームス木島平の方向性と併せて、観光交流センターの見直しを検討されたいという意見をいただいておりますので、今後、管理方法を含めて施設の見直しを進めていく予定であります。

## 議長（萩原由一）

勝山 正 議員。

## 再質問

### 8番 勝山 正 議員

それでは、再質問ということでお願いします。

今、課長の答弁にもありましたように、「たる川」との統合についてはなかなか進まない、施設の今後の活用方針が進まないために、具体的な進展はないとされております。

これについてはですね、方針を決めてから話を進めるというのでは、後手後手になってしまうような気がします。

例えばたる川の統合を進めるとするにはですね、問題点、建物の機能管理等を含め、互いに意見交換や情報の共有をしていかなければ、方針が決まってから統合しましょうという話になってもなかなか、統合する方向に向かうのは難しいんじゃないかなというふうに思います。それにはやはり、お互いの意見を交換しながらですね、しっかりと同じ意見共有をしながら、同じ目線に向かって進むということが必要かなと私の方では思っております。

いずれにせよ、たる川としては、過去には苦い経験がありますので、後でこうだというよりは、お互いに同じ意見を出し合いながら、どういう方向で進んでいくか、ということをもっと進んで話し合いをしていった方がですね、お互いに良い関係の中で統合ができるんじゃないか、できるとは確信は持てませんが、共有として、話し合いを進めるべきじゃないかなというふうに思っております。

2点目として、農の拠点施設の今後の進め方についてはですね、職員の意見を聞いたらという話をさせていただきました。

今後の進め方については、検討委員会の設置により意見を伺う場が必要とされていると、これについてはですね、検討委員会を開く前に、職員に意見を確認する、聞くことは重要なことだと私は思っております。

この建物についてはですね、一体誰のものか、村民のものであり、村有の財産であります。したがってですね、村の財産であるものをですね、しっかりと職員自らが部署が違って、同じ意見で共有していかないとですね、いやそれは違う部署だからってという話になってきますと、なかなかいい方向性が見えてこないということで、私はそう思っております。

余談としての話とすればですね、自分の財産のあり方をほかの人にね、聞いて進めるっていうことはあるか。実際ありませんよね。相談するとすれば、家族だというふうに思っております。それによって、今後の在り方を進めていくっていうのが基本だなと思っております。場合によっては、違う部分も出てくるかもしれませんが、そういう意味の中でいきますと、村の財産は職員全員が同じ意見で共有していかないと、なかなか前向きな意見が出てこない。いやそれは俺じゃないだろうっていうような話になってこようかと思っております。

昨日から答弁の中で、よく「ボトムアップ」という言葉が出てきますが、当然職員からの意見集約については、私はやるべきだというふうに思います。

実際には、アンケートなりするとすれば、当然、名前を書けというとなかなか本筋論のが出てこないかと思っておりますので、無記名で構わないと思っておりますし、いけば課ごとにですね、集約して一つの意見として吸い上げるのも大事なかなというふうに思います。

それをまた、まとめた中で、こういう意見があるということで検討委員会を設置しながらですね、当然今、村長が言いましたように、議員の意見も聞いたり、村民の方の意見も聞いたりというような、一番の基礎となる意見をですね、集約していくことは必要かなと思っておりますので、検討委員会を開催するっていうのは、今言ったように、意見集約してある程度こういう意見が出てきたということの中で、検討していくのは遅くはないかなというふうに思っております。

それと、観光交流センターについてですけど、利用の実績や観光振興局もファームスに移動したことから、農村交流館を利用するように案内しているとされております。対応できる方がいないのかと思っておりますけれど、利用者がいるのであれば、利用していただく方策も考えるべきだというふうに思い



ます。

課長の方からもお話ありましたように、今後の建物の扱い方について検討もしていかなきゃいけないという話もありましたが、それも大事かなと思います。

今、課長の答弁の中でありましたけど、観光振興局については、これからはずっとファームスに常駐させる予定でいるのか。また、秋になって冬になって、交流センターの方へ戻ってくるのか、ということがあろうかと思えます。もし、さっき話しましたように、ファームスに移動したことによりという話であれば、逆に観光交流センターに常駐する中でですね、高社山麓の観光を広げるっていうような場所にもなってくるような気がしますので、そこら辺の検討をお願いしたいというふうに思っております。

それと、道の駅の関係につきましては、農林高校生との関係なり、進めていきたいという話もありました。

一つの意見としてですけど、荒廃地対策として、そば振興を行っているわけですけど、そば打ちのお師匠さん方に話聞きますと、後継者がいなくて困っているというふうに話が聞かれました。

師匠の皆さんにつきましては、農林高校生のそば打ち班の指導に行っております。最近、結構全国でも優勝するなど、良い成績を収めている現状があります。

ただ、高校3年間が終わりますと、就職する先っていうような形の中で、そのそばを生かしたところに就くのはなかなかいないということで、ほかの業種へ就職してしまうということでもあります。今年につきましても、大きな成果を上げられてきております。後継者の育成の面からですね、高校生、そば打ち班の中で構わないと思えますけど、例えば振興公社の方へ採用してですね、後継者育成の面として、育てていくっていう考えも必要かなと思っております。それによってですね、3年間なり、培ってきたそばの経験をですね、道の駅ファームスで、今やってる以上のことが発揮されるような気がしますので、そこら辺についても魅力アップに繋げるとして、一つの案として、私提案したいと思えますけど、どういうお考えかお聞かせ願います。

いずれにしても、どの課題につきましても、時間が経てば解決する問題ではありません。日々の行動が肝心だと思います。いろんな面でありますPCDAがやっぱり必要。場合によっては、PCDであろうかと思えますので、そこら辺を踏まえながらですね、しっかりと対応していただければなというふうに思えますので、お答えを願いたいと思います。

## 議長（萩原由一）

日墓村長。

（村長「日墓正博」登壇）

## 村長（日墓正博）

はい、ファームス木島平の職員の関わりということでありますが、多分勝山議員については、今、当面課題となっている農の拠点の施設について、いろいろ議論をしたわけですが、実際には、その施設の周辺も含めた敷地全体での活用を、これからどういうふうにしていくか、もっと議論をしろというふうに思ったわけですが、その辺も含めて、早急に協議していきたいというふうに思います。

それからまた、「たる川」についても、来年の春に向けてできれば、協議が整えばというふうに思っております。ただ、具体的にどういう形っていうのは決まってないわけですが、早急に協議を進めたいというふうに思います。

それから、下高井農林高校のそば班でありますけど、入賞とか優勝とか、そういう機会に役場の方に見えるわけですが、その際に、将来そばを生業にどうかなという話も毎回させてもらうわけですが、なかなかその中では、そばでっていうのはなかなか。やっぱり自分の一生の将来のこと、生計を考えると、暮らしを考えると、なかなか難しいかなというふうに思っております。

生徒の方からは是非やりたいということがあれば、もっと真剣で考えるというか、考えることがある

と思いますが、やはり将来の職業選択に当たっては、本人自身が考えることが一番優先されますので、そういうことを大事にしていきたいなというふうに思っております。

そのほかも含めて、補足を担当課長に答弁させます。

#### **議長（萩原由一）**

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

#### **産業課長（湯本寿男）**

それでは、村長の答弁に補足をしてお答えをいたします。

「たる川」の統合のお話でありますけれども、こちらの産業企画室の方で一部事務的な補助をさせていただいておりますので、それは連絡を密にしながら、意見交換を行っていききたいというふうに考えております。

それと、観光交流センターのお話でございます。

現在の利用状況につきましては、お話をしたとおりでありますけれども、利用方法とすれば、売店と食堂、あと会議室の利用が主な利用方法になるわけであります。

売店と食堂については、それぞれお願いをしているところでありまして、会議室については、部屋はございますけれども、農村交流館と同じ機能になりますので、そういった効率を考えて、農村交流館への利用をお願いをしているところであります。

今後、活用方法については当然、勝山議員のご提案にもございますけれども、観光振興という意味でも大きな場所になると思っておりますので、あらゆる方法も含めて、これから施設の活用方法を検討していきたいと思っております。

それと、観光振興局の事務所でありますけれども、今まで観光交流センターで冬期を利用しておりましたけれども、やはりそういった行き来するということの煩雑さ等も含めて、道の駅でこれから業務を行っていくということで今のところ考えておりますので、よろしくお願いたします。

#### **再々質問**

##### **8番 勝山 正 議員**

再々質問の中で、1点。確認になろうかと思っておりますけど、観光交流センターの会議室はですね、やはり使いたいという人も大勢いらっしゃるわけですね。だから、そういうときには農村交流館を案内するんじゃなくて、使ってもらえるような方策もですね、しっかりと取っていただいて、活用ができるような方法を、またとっていただければなというふうに思いますが、そこら辺はどうでしょうか。

#### **議長（萩原由一）**

湯本産業課長。

（民生課長「湯本寿男」登壇）

#### **産業課長（湯本寿男）**

それでは、再々質問にお答えをいたします。

今まで申し上げましたとおり、やはりそういった会議室の活用等になりますと、夜間も想定されております。そうしますと、農村交流館でも会議室については夜間ご利用いただけるようになっております。そういった管理の面も含めまして、できれば農村交流館でこれからも統一をさせていただきたいというふうに思っておりますけれども、そういった声も無視するわけではございませんので、そういった広い意見も受け止めながら、施設の有効活用について検討していきたいと思っております。

**議長（萩原由一）**

以上で、勝山 正 議員の質問を終わりにします。

（終了 午前10時45分）

**議長（萩原由一）**

ここで暫時休憩といたします。

再開は、午前10時55分お願いします。

（休憩 午前10時45分）